

あなたの「見える」をみんなの安心に

エコモットはIoTを通じて
より安心な社会の実現に貢献します

2023年8月期 第3四半期決算

エコモット株式会社

証券コード：3987

2023年7月14日

© Ecomott, Inc. ALL RIGHTS RESERVED



目次

- 01 当社の概要
 - ・事業内容
 - ・ミッション

- 02 第3四半期決算概要
 - ・業績ハイライト
 - ・四半期業績推移
 - ・ソリューション別売上高増減要因
 - ・営業利益増減分析
 - ・貸借対照表

- 03 事業運営の進捗状況
 - ・IoTビジネスイノベーション
 - ・コンストラクションソリューション
 - ・IoTパワードソリューション

- 04 Appendix

01

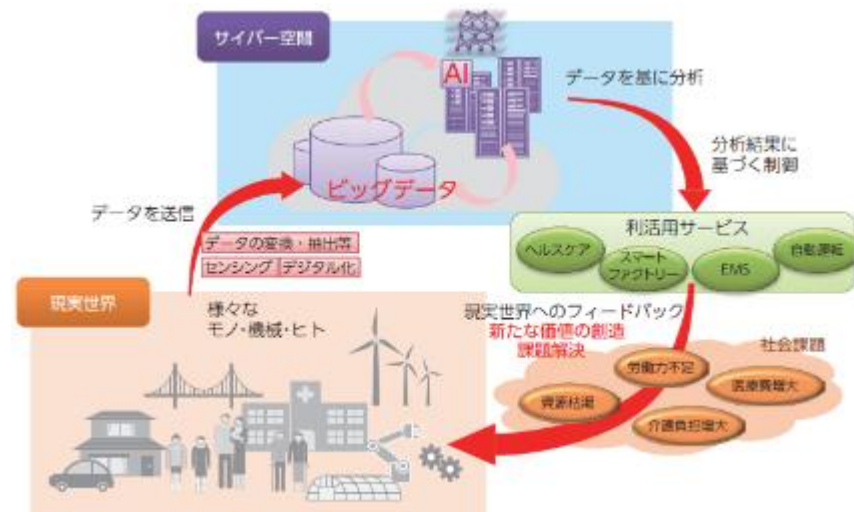
当社の概要

当社は創業以来、IoTインテグレーション事業を専業としています。

IoTとは

Internet of Thingsの略で「モノのインターネット化」と訳され「あらゆるモノ」をインターネットに接続、データ収集により「現状の見える化」を実現すること

IoTで収集したデータをクラウド上に蓄積（ビッグデータ化）し統計解析、人工知能（AI）等の分析手法を活用してデータを知識に変え、サイバー空間から現実世界にフィードバックすることで効率化、高速化、安心・安全を提供し課題解決



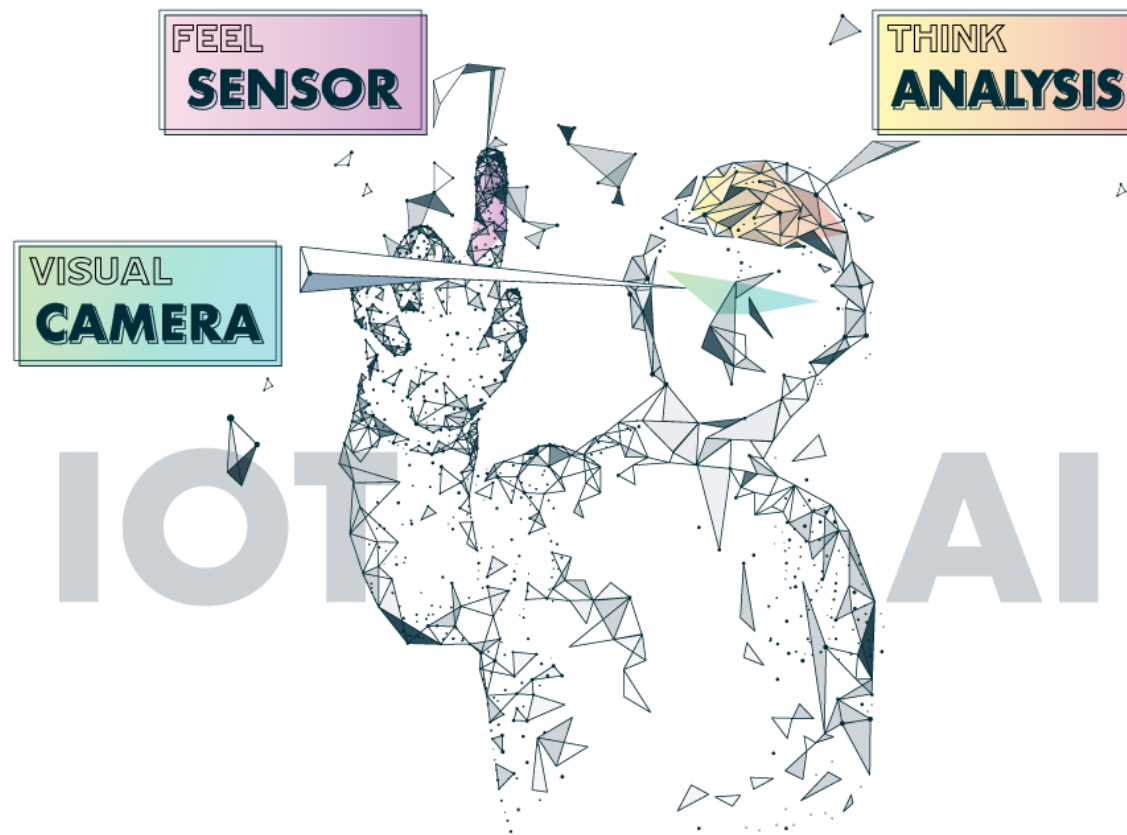
(出展) 総務省「平成28年版 情報通信白書」

当社が提供してきたIoT

「データを収集・分析し、現実世界にフィードバックするサービス」を提供し続け、課題解決を実現

未来の常識を創る

～IoT x AI を活用し、社会の課題を解決するリーディングカンパニーを目指す～



02

第3四半期決算概要

2023年8月期 第3四半期決算トピックス

グループ全体で前年同期売上高を上回り
売上高拡大（対前期+11.2%）

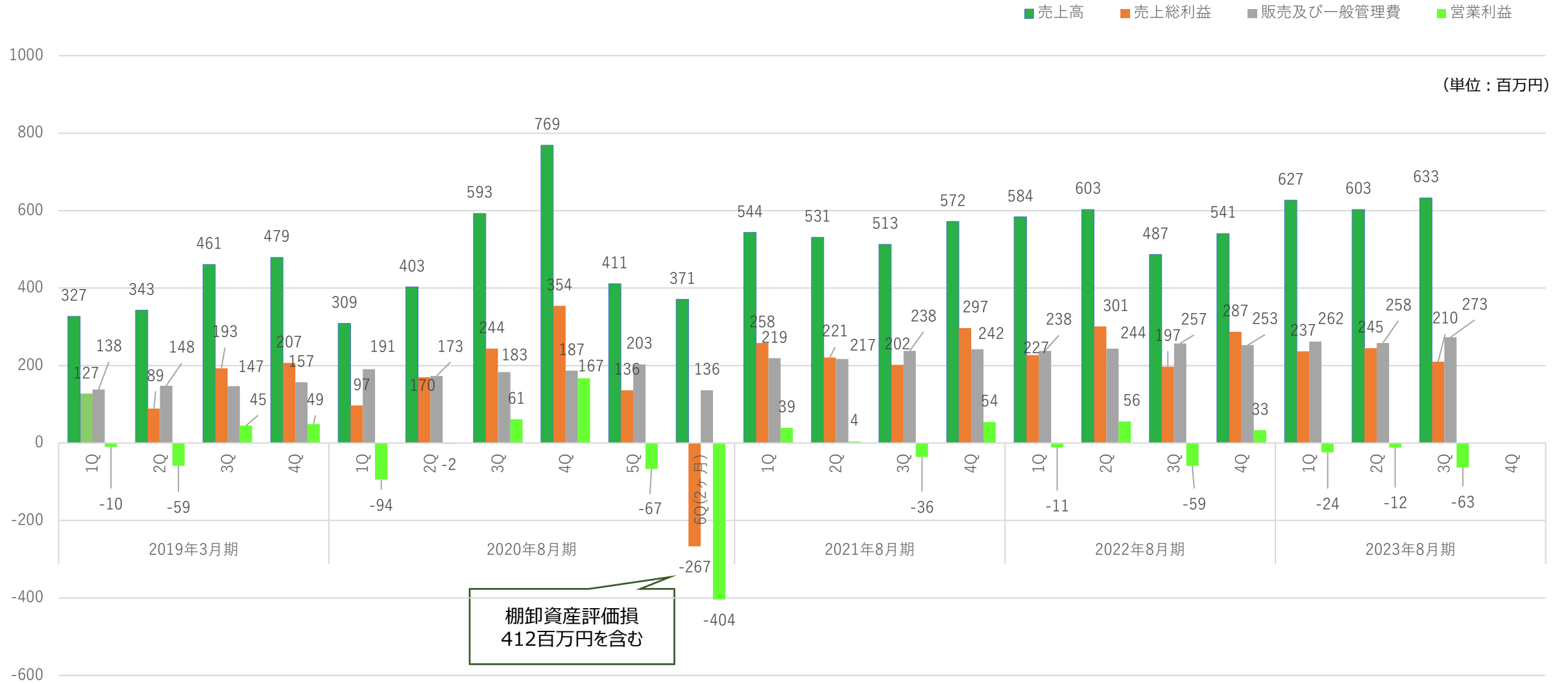
ソリューション区分を明確化することで
連結子会社とのシナジーを強化し成長を推進

IoTビジネスイノベーションの業績が堅調に推移したこと、パワーでんきイノベーションの業績が加算されたことで、売上高は前年実績を上回る。材料費高騰や売上構成比の変動によって、営業利益は前年実績を下回るが、2Qから継続しているコスト削減による改善を図る。また、4Qの大型案件での売上・利益拡大による通期リカバリーを図る。

(単位：百万円)

	2022年8月期 3Q実績	2023年8月期 3Q実績	対前年実績比 (%)
売上高	1,675	1,863	+188 (+11.2%)
売上総利益	726	693	△32 (△4.5%)
(売上総利益率)	(43.3%)	(37.2%)	△6.1pt
営業利益	△14	△100	△86 (-)
(営業利益率)	(△0.9%)	(△5.4%)	△4.5pt
純利益	△10	△70	△59 (-)
(純利益率)	(△0.6%)	(△3.8%)	△3.2pt

四半期業績推移



ソリューション別売上高増減要因



下記ソリューション別売上高増減要因を参照

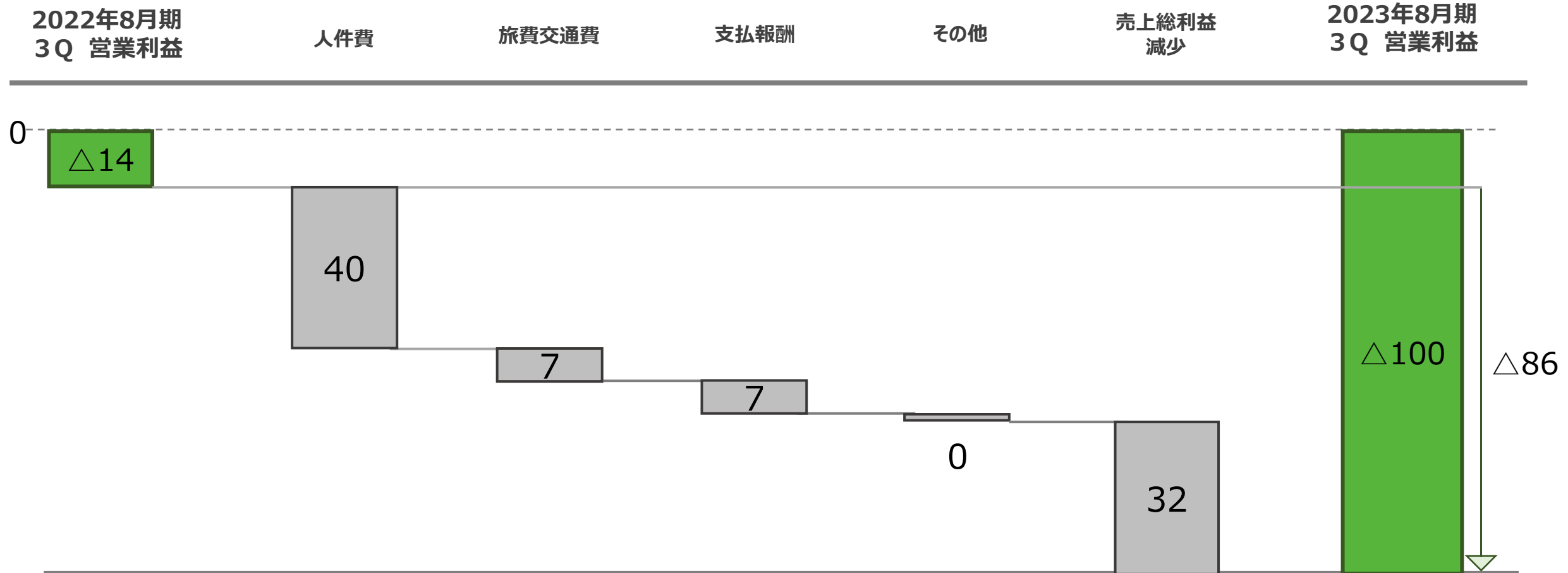
(単位：百万円)

	2022年8月期 3Q実績	2023年8月期 3Q実績	対前年実績比 (%)	ソリューション別売上高増減要因
IoTビジネス イノベーション	859	916	+56 (+6.6%)	<ul style="list-style-type: none">・ K D D I 株式会社との営業活動が順調に進行。特に空間自在プロジェクト関連の売上拡大に寄与・ ゆりもっとおよびEV充電スタンドの端末販売は計画を大きく上回り、売上拡大に寄与
コンストラクション ソリューション	751	652	△98 (△13.1%)	<ul style="list-style-type: none">・ 遠隔臨場向け商材、AI関連商材、共同開発案件は順調に売上拡大・ NETIS再取得商材の売上貢献に時間を要しているため、案件・受注数が減少・ 大型案件の受注数減少
IoTパワー ソリューション	64	294	+230 (+355.5%)	<ul style="list-style-type: none">・ 株式会社パワーでんきイノベーションの売上が寄与
計	1,675	1,863	+188 (+11.2%)	-

営業利益増減分析

増収したことで売上高は前年同期を上回ったものの、昨年と比較し、製造原価の増大による売上総利益の減少。M & Aに際しての支払報酬の発生及び社員数増大による人件費増加傾向であるが、全社的なコスト削減実施により通期での改善を図る。

(単位：百万円)



貸借対照表



子会社（株式会社パワーでんきイノベーション）設立に対する出資金の金融機関からの借入等により、有利子負債と総資産が増大している。また、純損失の影響による自己資本が減少している。

(単位：百万円)

	2022年8期 (2022年8月31日)	2023年8月期3Q (2023年5月31日)	増減
流動資産	1,369	1,725	356
(現金及び預金)	(546)	(760)	(214)
固定資産	502	543	41
総資産	1,871	2,269	397
有利子負債	427	678	250
自己資本	1,103	1,036	△66
自己資本比率 (%)	58.9%	45.7%	△13.2pt

03

事業運営の進捗状況

業務資本提携を締結した積水樹脂株式会社との本格的な取り組みを開始

3月に業務資本提携を締結した積水樹脂株式会社と、4Q以降の両社シナジーによる新たなソリューションの開発に向け、本格的な活動を開始。まずは短期的に両社の業績拡大をつなげるソリューション開発に着手し、早期リリースを図る。



各セグメント製品群



IoTをビジネスに
生かす3つの強み

- 構築力 IoTを業務に浸透させる力
- 組織力 IoT専門企業だからこその実行力
- つなぐ力 「モノ」「コト」をセンシングする力

まずは短期的な新製品の開発に着手

両社における本格的な活動が開始。具体的な提携業務を実施するフェーズに移行

融雪システム遠隔監視ソリューション「ゆりもつ」でゼロカーボン社会の実現に貢献

灯油やガスを主熱源とするロードヒーティングでは、膨大なCO₂を排出が問題となっている。「ゆりもつ」では24時間リモートモニタリングにより節約運転を実現し、かつIoT・AIテクノロジーによる自動オペレーションにより、持続可能な社会を目指す。

■ 「ゆりもつ」導入物件によるCO₂総削減量

(導入前平均使用量 - 導入後平均使用量 × 導入物件数 = 総削減量) × 適用CO₂排出係数 × 1



6,241世帯のCO₂排出量をリカバリー※2
年間23,279トンCO₂の削減

※1 当社CRMと独自の調査により総削減量を算出、排出係数は経済産業省「CO₂簡易排出量計算シート」を参照
 ※2 全国地球温暖化防止活動推進センター「家庭からの二酸化炭素排出量（2021年度）」より算出

■ AIを利用した融雪装置の制御に関する特許を取得 特許番号：特許第7246056号



オペレータが現地画像、周辺環境、気象情報、時間帯等を考慮し操作していたロードヒーティング制御を教師データとして学習させAIとして利用することで、操作スピードや誤操作をAIがサポート。
 本特許の活用により、オペレータの支援やCO₂のさらなる削減を目指す。

持続可能な社会の実現に向けたSX提案ならびAIによるオペレーション効率化の推進

配筋検査ARシステム「BAIAS」の機能追加による利便性がさらに向上。本格的な販売に着手

配筋検査ARアプリ「BAIAS」がさらなる機能追加アップデートを行い、国土交通省が定める「デジタルデータを活用した鉄筋出来形計測の試行要領（案）」に記載のすべての計測項目への対応可能へ。本格的な拡販体制が整い、売上拡大を図る。
【追加された4つの機能】



新機能① 鉄筋かぶりの計測

鉄筋径や配筋間隔のみならず、かぶり厚さの計測や、スパーサー個数の記録も可能になりました。

「鉄筋かぶりの厚さ（＝コンクリート表面から鉄筋までの最短距離）の検測にはスケールを用いた目視確認が行われてきましたが、配筋が密な場合には計測が難しい、目盛りが読みにくく難がはらつく、といった課題がありました。BAIASでは型枠や床面が平面である場合に、この平面を計測後に表示されるARマーカーを現実の鉄筋に重ね、平面から鉄筋までの距離を測ることでかぶり厚さを算出し、計測結果と写真をあわせて出力することが可能です。加えて、かぶり厚確保のために使用されるスパーサー個数や配置を記録し、写真とあわせて出力することも可能です。

計測中画面

予めかぶり厚さや鉄筋径の設計値を入力し、平面の取得・設定を行った後、マーカーを鉄筋に合わせておくことでかぶり厚さを計測します。

スパーサー個数の記録

予め設計値（スパーサーの設置数や材の範囲）を入力し、画像を撮影後、写真上のスパーサーをタップすることで、AR表示された赤枠内のスパーサーの個数を計測します。

新機能② ダブル配筋への対応

採用実績の多いダブル配筋に対しても、配筋間隔を計測可能

強度や耐久性を高めるためにコンクリート内の鉄筋を2段に配筋する、いわゆる「ダブル配筋」に対しては、一方からの目視確認が難しい奥側の配筋に対しても、AR表示された赤線のガイドライン上でスライドするマーカーを、目視可能な角度から対象鉄筋の位置に合わせて配置することで、配筋間隔を自動的に計測することが可能です。

計測中画面

予め設計値（鉄筋本数・鉄筋径・平均間隔）を入力後、奥側の配筋を目視可能な角度から計測します。

計測結果の表示

マーカー間の距離をmm単位で、鉄筋間隔の数値として表示します。

【国土交通省「デジタルデータを活用した鉄筋出来形計測の試行要領（案）」…R3.7策定、R4.6改訂】

3. 3 出来形計測対象と計測手順

(1) 本要領に基づく試行においては、**鉄筋本数、鉄筋径、配筋間隔、鉄筋かぶり**を計測対象とする。

鉄筋本数については、1回の撮影範囲内において正確にカウントできるかを検証することを目的としており、画像計測で全本数を確認する必要はなく、適宜、画像計測の範囲を設定する。

同様に、出来形管理基準において、「床版工の配筋間隔は、1径間当たり3ヶ所（両端及び中央）測定。1ヶ所の測定は、軸方向の鉄筋は全数」と規定されているが、画像計測で軸方向の鉄筋全数を確認する必要はなく、適宜、画像計測の範囲を設定する。

また、出来形管理基準には定められていないが、段階確認で設計図書との対比を行う必要があると判断される項目（**重ね継手長、定着長、など**）についても、**可能な限り計測を行うものとする（画像計測であれば、自動計測ではなく、一部手動計測でも構わない）。**

→ **対象とする計測項目全てに対応**

→ **こちらにも対応**

新機能③ 2点間計測機能

2点間計測機能により、事前準備や作業の手間を軽減

配筋検査では、鉄筋間隔・本数等とともに「重ね継手」や「定着」の長さが設計図書に規定される値を測定しているか確認しなければなりません。従来の検測にはスタックやリボンテープなどが用いられ、事前準備・撮影や検測作業に手間を要していましたが、BAIASでは、計測したい2点をiPad Proの画面上で指定して計測ボタンをタップするだけで、簡単に2点間の計測結果を画面上にAR表示することが可能です。

計測手順

- 1 計測対象の面に両端中央のポイントを合わせて計測ボタンをタップ
- 2 点が保存され、黄色い球状オブジェクトが表示される
- 3 黄色い球状オブジェクトが表示された鉄筋で計測対象のもう一方の端にポイントを合わせ、計測ボタンをタップ
- 4 保存した①と②の2点の計測結果が表示される

LIDAR スキャナ機能により、計測したい2点をiPad Proの画面上で指定し計測ボタンをタップすることで2点間の計測結果が画面上にAR表示されます。

新機能④ 電子小黒板機能

電子小黒板機能により、検査プロセスの省力化に貢献

配筋検査の写真撮影の際には、工事名や工程などを記載した黒板を貼る必要がありますが、黒板の持ち運びや記入に係る手間を軽減するため、検査写真の電子納品においては、信頼性を担保した上で黒板を電子化する技術の活用が認められています。

BAIASには項目名やサイズ、レイアウトを自由に変更可能な電子小黒板機能を実装しております。計測結果は自動的に電子小黒板に埋め込まれるため、従来の方法①②③コンベックスで検測、④計測結果を確認し、⑤平均間隔を計測、⑥手書きで黒板に書き込む⑦が必要なくなり、検査プロセスのさらなる省力化が可能です。（注）検行の段階では、比較のため従来の計測方法も必要となります。

※BAIASは（一社）施工管理ソフトウェア産業協会による信頼性検証（改訂）機能検定および小黒板情報連携機能検定に合格済みです。

黒板一覧画面より、検測に合わせたテンプレートを作成することが可能です。

画面タッチで鉄板の位置・サイズを確認。計測結果は黒板に自動反映されます。

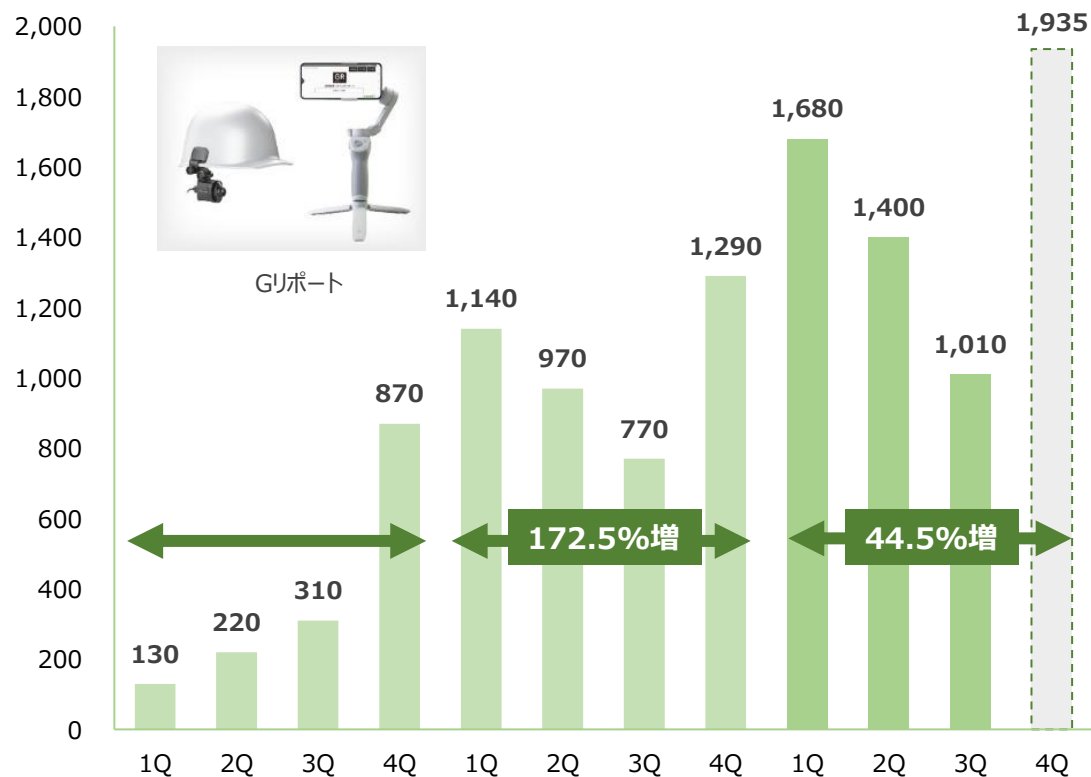
機能追加アップデートが完了、今後は建設DXを背景とした拡販フェーズへ移行

遠隔臨場システム「Gレポート」の稼働台数が依然として拡大継続。事業部売上高に大きく貢献

土木現場市場における国交省直轄工事において、100%遠隔臨場の実施される施行要領改正を背景に稼働台数は依然として拡大トレンドが継続。サービスインから当期末までに累計稼働台数が10,000台を突破する見込み

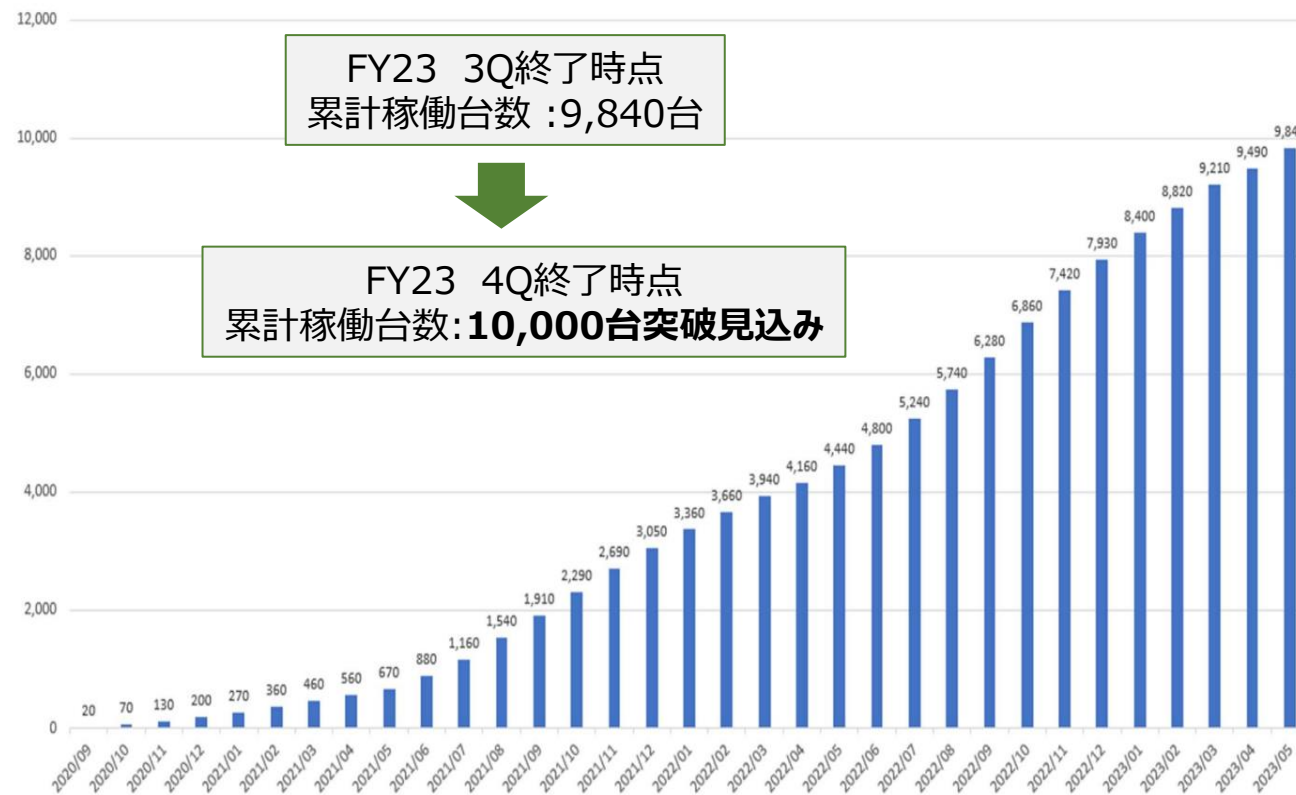
(単位：台)

■ 四半期別累計稼働台数



(単位：台)

■ 累計稼働台数



利便性を高めるためのアップデートを実施、さらなる規模拡大

04

Appendix

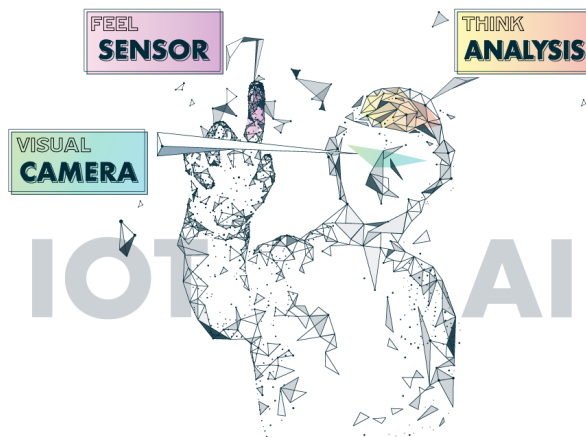


社名	エコモット株式会社
代表者	代表取締役 入澤 拓也
設立	2007年2月（決算期：8月）
資本金	6億1,748万円（2023年5月末現在）
本社所在地	北海道札幌市中央区北1条東1丁目2-5 カレスサッポロビル7F
営業所	札幌・東京・青森・仙台・北信越 東海・関西・中四国・九州
従業員	166名（2023年5月現在 連結）
事業概要	IoTインテグレーション事業

2017年6月21日 札幌証券取引所アンビシャス上場
2018年6月22日 東京証券取引所マザーズ(現グロース)上場
2019年1月16日 KDDI株式会社と資本業務提携

コーポレートスローガン

あなたの「見える」をみんなの安心に。



・積水樹脂株式会社と業務・資本提携

2023

・株式会社パワーでんきイノベーション子会社設立
・合併会社株式会社プレミア・ブライコネク設立

2022

・ティ・アイ・エル株式会社と業務・資本提携

・株式会社フィットを完全子会社化
・ユアスタンド株式会社と業務・資本提携

2021

・広島県広島市に中四国営業所開設

2020

・愛知県名古屋市に東海営業所開設
・KDDI株式会社と「KDDI IoTクラウド Standard」
LOGGERコース(LPWA)を共同開発

2019

・株式会社ストーク(現株式会社ゴモジー)を完全子会社化
・KDDI株式会社と業務・資本提携

2018

・東京証券取引所マザーズ(現グロス)市場に株式を上場

2017

・札幌証券取引所アンビシャス市場に株式を上場

2016

・株式会社テラスカイと業務・資本提携

・KDDI株式会社と提携し「KDDI IoTクラウド Standard」をリリース

2015

・大阪府吹田市に関西営業所移転

2014

・IoTデータコレクトプラットフォーム「FASTIO」をリリース
・交通事故削減ソリューション「Pdrive」の提供を開始

2013

・融雪装置遠隔制御代行システムの特許取得
・本社を北海道札幌市中央区に移転

2012

・宮城県仙台市宮城野区に仙台営業所開設

2011

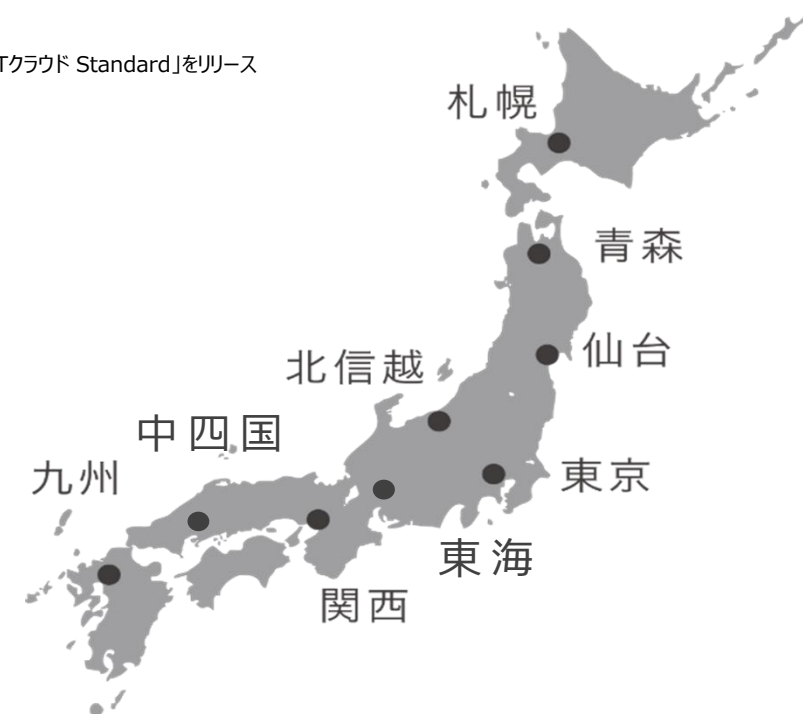
・東京都千代田区に東京営業所開設、兵庫県尼崎市に関西営業所開設、佐賀県鳥栖市に九州営業所開設

2009

・建設情報化施工支援ソリューション「現場ロイド」をリリース
・本社を北海道札幌市西区に移転、青森県青森市に青森営業所開設

2007

・融雪装置遠隔制御システムの特許取得
・融雪装置遠隔制御代行サービスを開始
・北海道札幌市白石区にて設立



創業以来、一貫してIoTインテグレーション専門プロバイダーとしてソリューションを提供

ECOMOTT IoTインテグレーション事業

IoTビジネスイノベーション

ECOMOTTの中核である、IoTインテグレーションを中心に、DXを支援。また、「ゆりもっと」などの、IoTプロダクト販売等を行う。

FASTIO IoTプラットフォーム

YR 融雪システム遠隔監視ソリューション

YourStand EV充電スタンド集合住宅向けソリューション

EIT 電気電子回路設計・機械設計

コンストラクションソリューション

建設現場の安全性、生産性、施工品質水準をデジタルテクノロジーによって向上させ、国土の発展ならびに防災に貢献する。

GR 建設情報化施工支援ソリューション

持ち分法適用会社

PREMIER BrightConnect Pd Pdrive モビリティサービス

IoTパワードソリューション

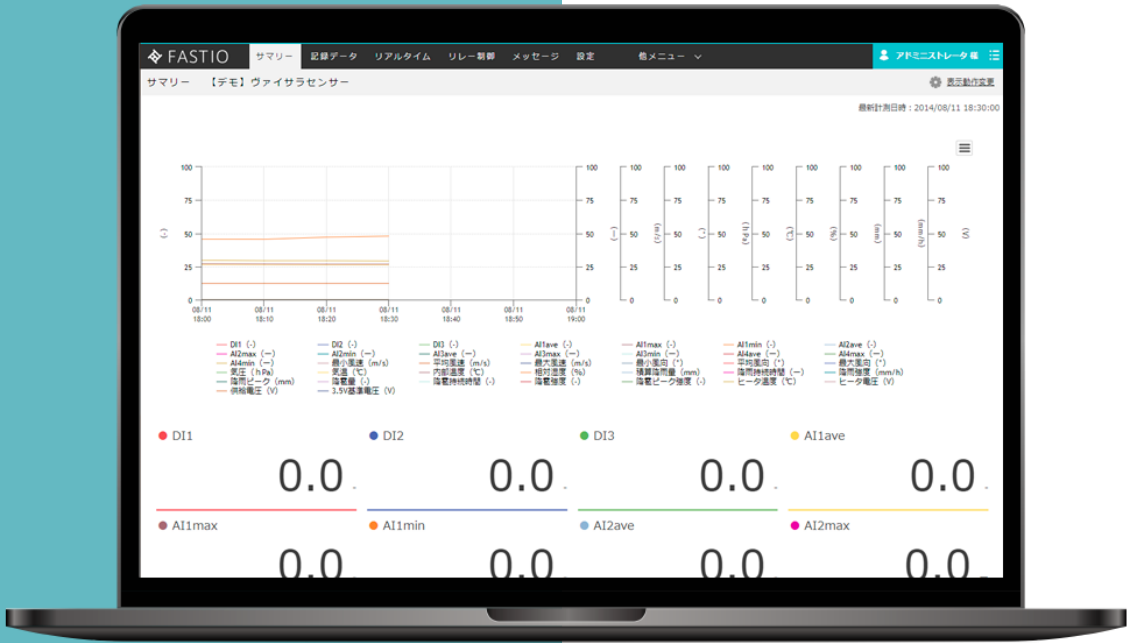
IoTの力を駆使し差別化できる既存産業に自らが参入し、自社の強みを発揮する。

Power Denki Innovation 太陽光発電EPC

GOMOGY リモート監視・メンテナンス

FASTIO

IoTデータコレクトプラットフォーム「FASTIO」により、通信・センシングからデータの蓄積・分析フィードバックまでをエコモットがワンストップで提供。お客様のDXを支援。



クラウド環境

データ蓄積 ～「クラウド」で集めたデータを蓄積。ダッシュボード閲覧～

アプリ



データ解析 ～集めたデータをAIで解析し、現実世界へフィードバック～

FASTIO AI

多種多彩な学習済みAIを活用し、最適なAIを選定。また、自社のデータサイエンティストによるオリジナルのアルゴリズムも研究開発。



現実世界

データ収集 ～「センサー」でモノから情報を取得し、クラウド環境に送信～

ゲートウェイデバイス

多様なニーズに対応する
自社開発の産業用IoT
通信デバイス



FASTIO LINK

接続実績のある豊富な
センサーパートナープロ
グラム「FASTIO LINK」



【企業抱えている様々な課題に対してDX支援】



- ・ 人手不足が深刻だ。
- ・ 生産性を上げるにはどうしたらよいか？
- ・ 新製品を開発したい。
- ・ 競争に差をつけられないようにするには？

課題

解決に貢献！

IoTビジネスイノベーション - 融雪システム遠隔監視ソリューション



融雪システム遠隔制御代行サービス「ゆりもっと」。分譲マンション管理組合や、賃貸マンションオーナーを顧客とし、北海道・北東北を中心に2,500台以上設置し、冬期間の大幅な省エネルギーを実現。



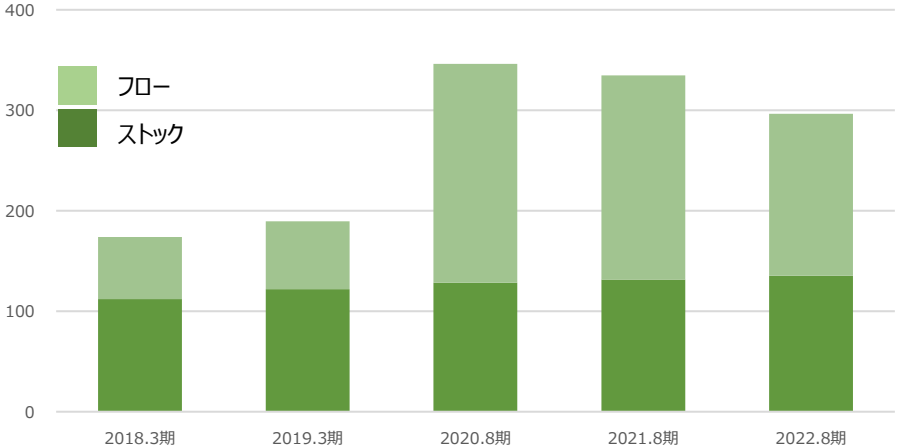
■ 導入事例

- 札幌市西区賃貸マンションへの導入
- ・融雪面積：1,116㎡
- ・設備状況：融雪ボイラー8台

1シーズン平均効果額
1,414,800円
 導入後8シーズンで
 平均56%の削減効果

■ 売上高実績（5か年）

(単位：百万円)



IoTビジネスイノベーション - EV充電集合住宅向けソリューション

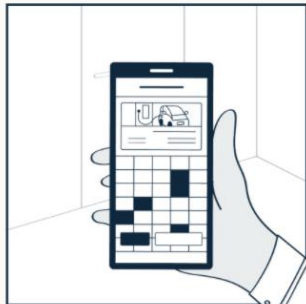


集合住宅における、EV充電器の運用課題を解決するためのシステムを提供。EV充電器の予約管理や決済、遠隔制御を行う。分譲マンション管理組合や賃貸マンションオーナーを顧客とし、住民がEVを購入できる環境を提供

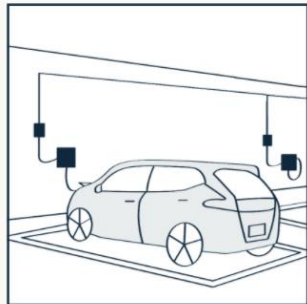


サービスフロー

SERVICE FLOW



利用者がアプリで
予約&決済



EV充電器を利用



コアスタンドから
利用料金をお支払い





IoTビジネスイノベーション

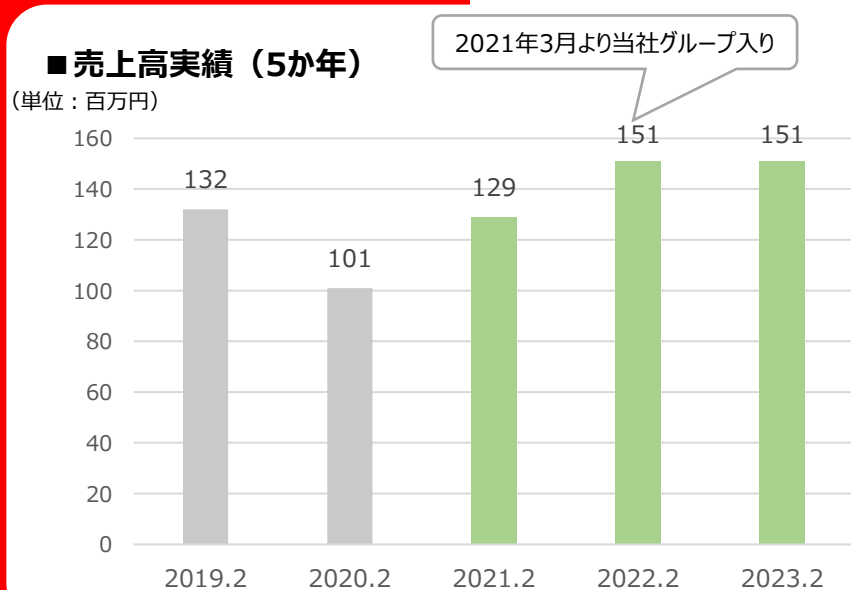
株式会社フィット

電気・電子回路、ソフトウェア、機械の設計を主にトータルソリューションを提供。産業設備、環境・プラントにおける設計実績が多く、豊富なノウハウを蓄積。また、ニアショア開発体制を有しており、お客様に合わせたご提案を実現

■ 導入事例

電子回路設計

水処理・ごみ処理プラント設備設計





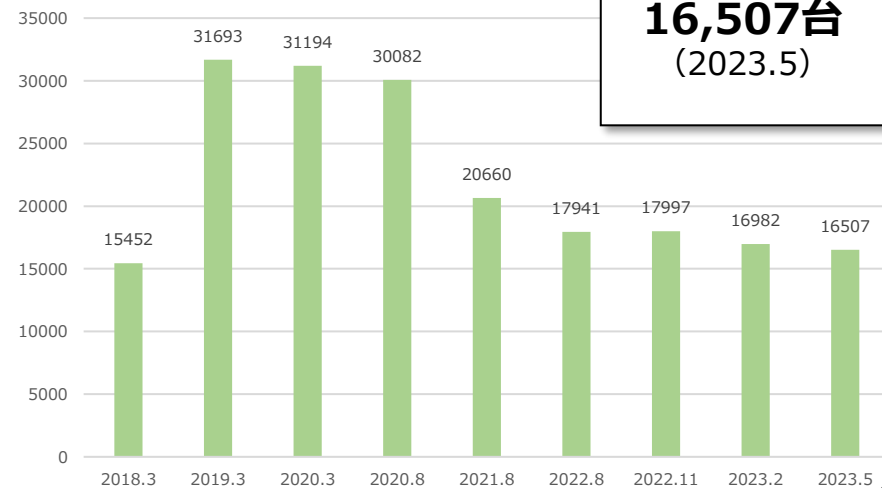
モビリティサービス



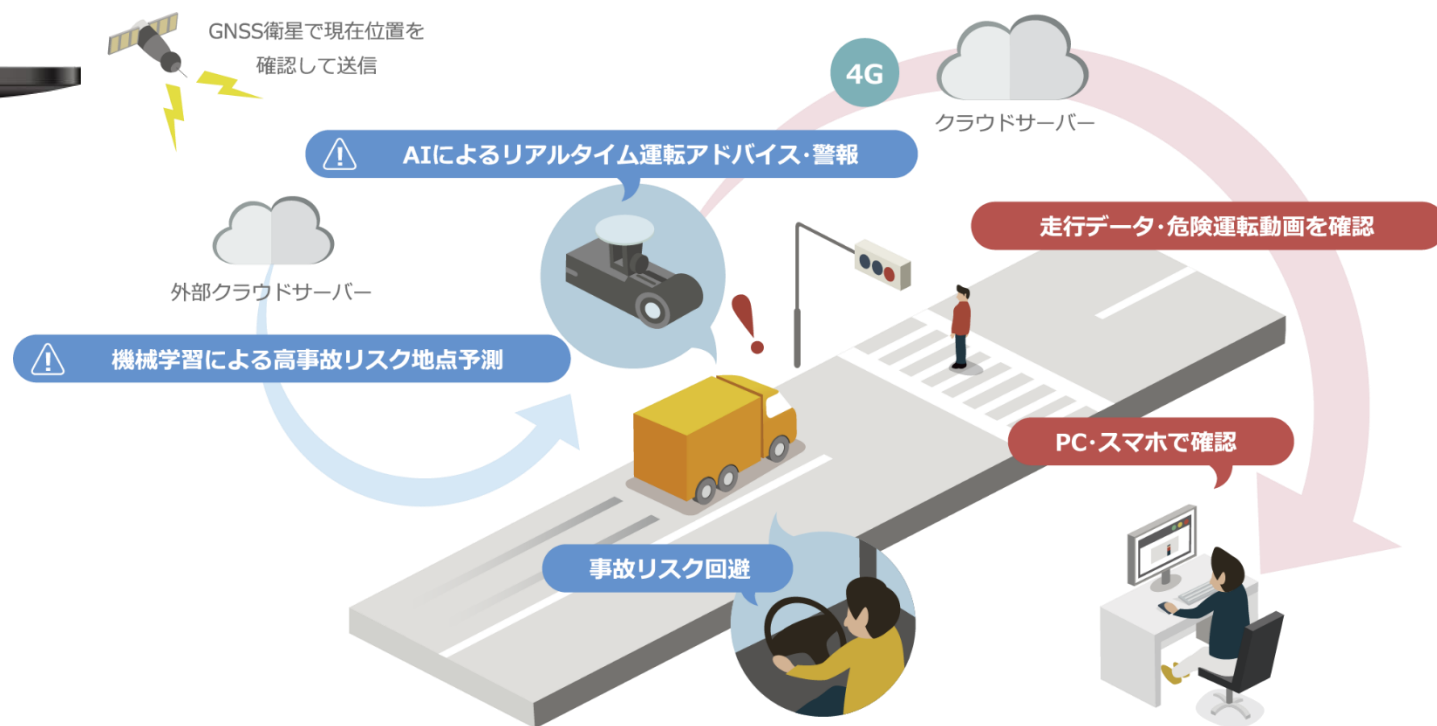
モバイル通信を搭載した高性能ドライブレコーダーを全国へ約1.7万台提供。導入により安全意識向上が事故の減少につながり、安心安全の実現へ貢献

■ 設置実績

(単位：台)



16,507台
(2023.5)



CONSTRUCTION SOLUTION

GR 現場ロイド

建設情報化施工支援ソリューション「現場ロイド」を2009年以来、16,000件以上の全国工事現場への設置が進み、工事現場の安全性向上、業務効率化、品質向上に大きく貢献

国土交通省 新技術情報提供システム

NETIS
認定製品多数



■ サービス事例

・クラウドロガー（遠隔クラウド計測システム）

風速、雨量、水位など現場の様子を自動計測データはクラウド保存され、どこからでも確認可能。設定値に応じ警報装置と連動し安全対策を強化

・おんどロイド（コンクリート養生温度管理システム）

厳寒期のコンクリート養生温度管理等に採用現場事務所は1キロ以上離れているが、リアルタイムにモニタリングすることができ、品質向上を実現

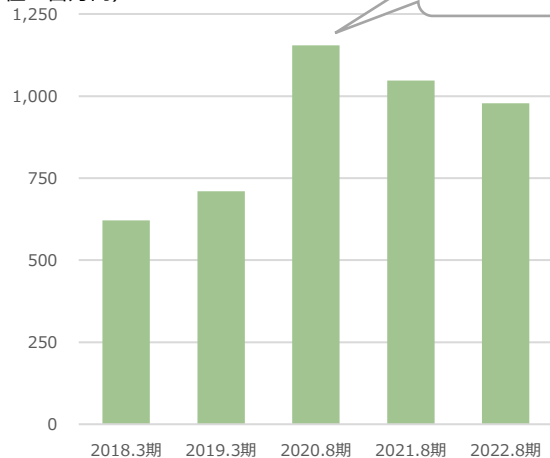
・ミルモット（遠隔監視カメラシステム）

スマートフォン等で遠隔地から現場状況を動画監視可能。赤外線照射機能により夜間撮影対応し、ソーラーバッテリーでの運用可能



■ 売上高実績（5か年）

(単位：百万円)



FY2020は
17ヶ月決算

■ 設置実績





IoTパワードソリューション



自治体、病院、学校等に対し、空調・暖房機器の販売、設置、保守・メンテナンスを実施。
また、水処理関連の顧客に対して、IoTリモートモニタリングサービスを展開

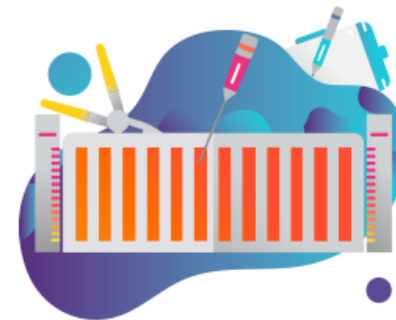
空調・暖房機器の販売、設置、保守・メンテナンスのほか、IoT機器の提供による、それら機器の遠隔監視や遠隔制御まで広くサポート

空調 暖房設備



遠赤外線ヒーターやサーモコイル（顕熱交換器）、脱臭装置eZ-7のご提案から、IoTによる暖房機器の予兆保全サービスや遠隔機器制御サービスのご提案をおこなっております。

メンテナンス

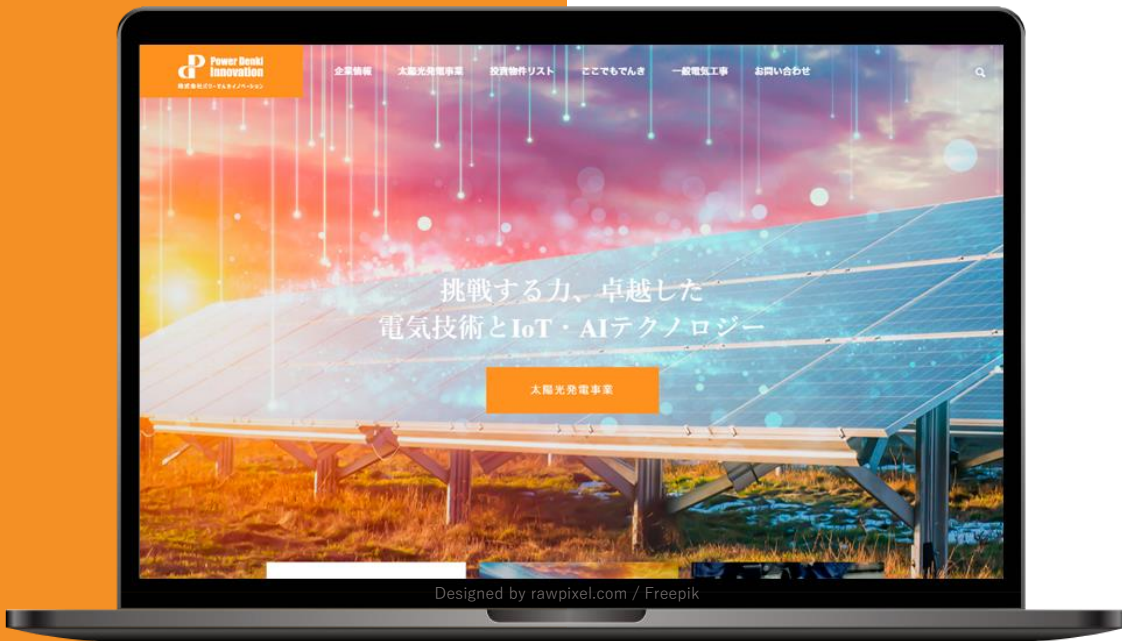


長期使用製品安全点検制度に基づき、北海道内の様々な施設のメンテナンス業務を請け負ってきました。

AI IoT技術



空調・暖房機器の予兆保全や遠隔機器制御、灯油残量の遠隔監視サービスなどAI/IoT技術による様々なご提案をしております。



IoTパワードソリューション



グリーンエネルギーの普及のため、太陽光発電EPC[※]事業へFY2023より参入。当社IoT/AI技術力や蓄電池製品を生かし、単純な施工会社ではなく、差別化されたビジネスモデルを構築

【業務内容】

- 野立ての太陽光発電のEPC事業
- 工場や店舗などの、自家消費型ソーラー発電システム設置事業
- 一般家庭向け屋根置きソーラーパネル・蓄電池設置事業

太陽光発電EPC事業



IoT



蓄電池



自家消費型、第三者所有PPAモデルなどのマーケットなどに展開



IoT専門ソリューションベンダーとして顧客と向き合い、1万件を超える案件に携わった実績が、当社の財産であり、積み上げられた強み

センシング技術

センサーの豊富な接続実績

パートナープログラムを通じ、多数の接続実績のあるセンサーを用意し、多様なニーズに対応可能



自社開発の通信デバイス

IoT専門だからこそその多様な顧客ニーズに対応した、多種多様な自社開発の通信デバイスを提供



システム構築力

アプリ・クラウド側のエンジニアと、ハード・ファームウェアを同時に構築できる強み

クラウド



PHP/JAVA
Javascript

ファームウェアアップデート、セキュリティ、カスタマイズ、死活監視、電力監視、パケット量監視など

製品



C,Python
組み込みソフト開発、
回路設計等

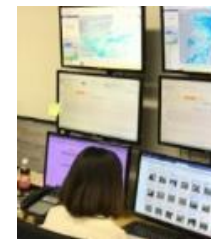
MCPC認定資格保有者

IoTプロフェッショナル 1名
IoTエキスパート 11名
IoTアドバイザー 16名

(2022年12月現在)

サービス運用力

豊富な実績が証明するサービス運用体制により「当たり前」に使えるIoTサービスを提供



融雪システム監視
(冬期間24時間)



カスタマーサポート



システム
24時間保守



自社エンジニアによる
カスタマイズ



フィールドでの
設置ノウハウ



キットिंग
出荷作業

あなたの「見える」をみんなの安心に。



- 本資料は、情報提供を目的としたものであり、当社株式等特定の商品についての募集・投資勧誘・営業等を目的としたものではありません。
- 本資料に記載されている見解・見通し・予測等は、資料作成時点での当社の判断です。将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を確認された上で、ご利用ください。
- 本資料で提供している情報は、予告なしに内容が変更または廃止される場合がありますので、あらかじめご了承ください。
- 本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものです。

＜本資料に関するお問い合わせ先＞

エコモット株式会社 経理財務部
TEL : 011-558-2211 Mail : ir@ecomott.co.jp
URL : <https://www.ecomott.co.jp/>